

福祉医療制度のあり方に関する意見聴取会議（1回）における主な意見

日時：令和6年11月19日（火）午後1時～午後3時

場所：京都ガーデンパレス 鞍馬の間

出席者：稲森委員、鈴木委員、小野委員、濱島委員、郡谷委員、小馬委員、中井委員、藤本委員、田中（美）委員、常塚委員、福元委員、星川委員、西野委員、田中（眞）委員

<主な意見>

子育て支援医療費助成

【検討の方向性】

- ・制度の拡充によりどのような効果や、行動変化があったのかを検討すべき。
- ・子どもの歯の健康は将来的にも重要であり、制度拡充によりどのような影響があったのかを検討すべき。
- ・子どもの医療費の経年変化や、他県の状況との比較を行いながら制度のあり方を考えるべき。
- ・安心して子育てできる環境をつくるため、子どもの医療費を助成することはよいことである。拡充については、メリット・デメリット両面を見ながら検討すべき。
- ・子どもを取り合うためではなく、子どもの利益を第一に、社会全体で命を育む観点で制度のあり方を考えるべき。
- ・医療だけではなく、家庭での対応や病気の予防、地域や学校と連携した子どもの健康増進の取り組みなどについても議論していきたい。
- ・制度の持続可能性を考えつつ、さらなる拡充についても検討していきたい。

【医療提供体制】

- ・利用者側からすると制度はあった方がよいものだが、制度により安易な受診が増える懸念がある。
- ・小児科の少ない府北部などでは気軽に小児科を受診できない地域も多く、制度があったとしても医療格差が生じることも懸念される。
- ・アンケートでも安心という観点では医療機関に相談できて安心できたという意見が最多であり、子育ての安心に医療の安心は重要である。

障害者医療費助成

- ・知的障害者の方などを含めて制度を必要とする方にわかりやすく周知することが重要である。

老人医療費助成

- ・制度創設が最も古く当時と今では状況も大きく変わっており、それらを踏まえて制度のあり方を考えていきたい。
- ・介護予防や生活習慣病予防など、高齢者の健康増進のための施策には様々な課題があり、高齢者施策全体の観点や全国の状況などを基に制度のあり方を考えていきたい。

総括

- ・財政上の問題はあるが、医療を必要とする方が医療費の負担を理由に医療が受けられないといったことがないように制度全体のあり方を考えるべきである。